サザンクロス

vol.4

KINAN HOSPITAL
OFFICIAL INFORMATION PAPER

May.1.2009

プロ意識の崩壊

病院長　山本忠生

医学や看護教育の真の目的は「医の心を知る」「最新の知識や技術を生涯学び続ける手法を授ける」ことにあります。患者・家族は「優しくて、優れた技術や高度な知識があり手術・治療・管理も上手な人あるいはチームに治療してほしい。」と思うものです。しかし現状は大学でも、研修病院でもペーパーワークが増加するばかりで、仕事のレベルアップや患者サービスはおろそかになっています。

最近の医療裁判では、添付文書や医学文献、ガイドライン等に記載のある内容を外れると 結果が悪ければ責任を問われる傾向があります。プロの持つ高度な専門的知識や技術を素人が判断するには無理があり、司法に判断をゆだねることは、自分たちの責任を放棄し、素人を不安にさせるだけのようにも思えます。ワシントン大学の加藤良太氏によればプロとは技術的な側面と道徳的な側面に優れている人物と定義し、“医療崩壊”は医師のプロ意識の崩壊が原因であり、プロ同士の相互批判が不足していると述べています。

新臨床研修医制度が医師不足の原因のひとつとされ、５年目の今年は見直しが予定されています。内科、救急以外は選択科目として、ストレート研修に近いものにするという方法です。国民の望む医師を育てる方法としてインターン制度、研修医制度を経てマッチングや新臨床研修制度が作られてきました。幅広い全人的な、断らない医療を目指してきたはずですが、学部教育やプログラム内容の評価を行わずに、スケジュールだけに目を向けるのは賛成できません。当局のアリバイ作りばかりで、プロの医師を作るという本来の目的と離れた議論になっています。

病院のスタッフが患者のため、社会のために働くのは当たり前のことですが、医療の現場では競争原理、経済優先の議論が目立ち、医療提供者と受給者の信頼関係を構築する作業は遅れています。殆どの病院が赤字経営なのは制度そのものの欠陥で、高度化、細分化されている医療を支え、プロが働きやすい職場を作るには、マンパワーの確保とともに、医療に対する財政負担や社会整備が必要です。一方、我々にできることは、プロとして、技術と道徳の両面を向上させ社会の信頼を得ることです。救急患者のたらいまわしなどは論外です。

日本DMAT隊員研修を受講して

ICU　栗山　かおり

DMAT(Disaster Medical Assistance Team)とは災害の急性期（48時間以内）に活動できる災害派遣医療チームのことです。

活動内容は、被災地内の病院支援や災害現場で消防隊等と連携し、トリアージ、応急処置や多発した傷病者を航空機等により被災地外へ搬送する広域搬送が主です。

今回私たち（救急部長 古谷Dr、泌尿器科 線崎Dr、OP 宮井Ns、医事課 山林調整員）は当院で２チーム目として兵庫県災害医療センターでの研修に参加させていただきました。

実際に近い訓練を行い、特殊環境の中での診療、処置の困難さ、資機材の準備、安全確認、情報収集、消防隊との連携の重要性を学び、知識、技術の未熟さを痛感した訓練でした。研修中に行われた筆記・実技試験では悪戦苦闘しましたが、チームワークで乗り切り、山林さんは実技で最優秀賞を受賞しました。

研修を通して、突発的に起こる災害に備えて日常から個人装備、資機材の準備、訓練、災害の共通の知識、技術の向上が大切であると実感しました。災害時におけるそれぞれの役割を学ぶ貴重な経験となり、まだまだ準備段階でありますが私たちのできることから取り組んでいきたいと思いますのでよろしくお願いします。

看護学校だより

卒業式

平成21年3月2日に25名（女子15名、男子10名）が卒業しました。
就職状況は以下のとおりになっています。新しい職場での活躍を期待します。

紀南病院　13名
県内他病院　4名
県外他病院　6名
進学　　　　2名

造園委員の植えた花もきれいに咲きました！

私が実習で落ち込んでいるときに、実習メンバーやクラスメイトが悩みを聞いてくれたり「大変やけど一緒に頑張ろう」と声かけ励ましてくれたことが心の大きな支えになりました。また、辛く苦しい思いをしながら必死に実習に取りくんでいる皆の姿は自分も頑張ろうという気持ちを与えてくれました。患者様からの「ありがとう」という言葉や笑顔に何度も助けられました。

入学試験について

平成21年度の入学試験が終了しました。
推薦入試11名、前期入試（1.7倍）後期入試（2.4倍）で計31名が合格しました。

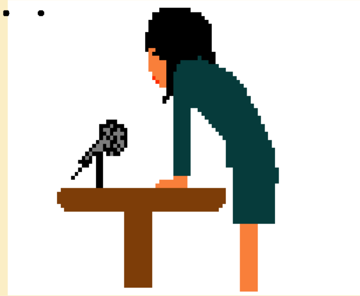
入学式

平成21年4月7日、桜の花も咲き誇り、晴天にも恵まれ春の日差しの注ぐ中、入学式を迎えることができました。今年度は女子26名、男子5名、計31名が入学しました。

2年生の小森実生さんが、
「看護師になるという目標を持つ仲間として共にがんばりましょう」
と歓迎の言葉を述べました。

新しい環境に慣れるまでしばらくかかりますが、看護師を目指して頑張ってもらいたいと思います。

新入生の一言より・・・



挫折しそうなときには、共にがんばる仲間と励まし合って乗り越え、それぞれの理想としている看護師に近づけるよう努力し、成長し続けたいです。

お知らせ

5月1日（金）は看護の日（5月はナイチンゲールの誕生月）講演会があります。幅広い知識や経験から、看護に関連させて自己を振り返る機会です。

地域医療連携だより

柏井内科クリニック　柏井　利彦

「人が皆　我より偉く見えし日に　花を買いきて　妻と楽しむ」
という石川啄木の歌がありますが、何らかの気分転換には花は最適です。

私と洋ランとの関わりは１４年前にクリニックを開業したとき、紀南病院の同僚などより観葉植物とともにたくさんの洋ランをお祝いにいただいた時に始まります。それまでは妻が自宅でシンビジウムを育てていた程度でしたが、透析医療をしていると比較的時間はあるもののクリニックでの拘束時間が長いため、花を育てる事を趣味としました。

元々花が好きで、特に赤の「ハイビスカス」が好きで、まだあまり店頭で見かけない時代には車酔いをする子供を乗せてよく太地の植物園までドライブに行ったものです。開業してからも安い鉢を見つけては毎年増やしてゆき、今では２０以上にもなります。「ハイビスカス」の花は緑の葉に赤い花でコントラストは非常にいいのですが、花は１日でしぼんでしまいますので、いつも花が咲いているという訳にはいきません。その点洋ランはものによっては花の咲いている期間が長く、昨年誕生日に頂いた「胡蝶蘭」は8月から今年の１月まで花をつけていました。とはいっても温度が問題で一昨年初孫に買ってきた「カトレア」は暖房のせいで１週間で花が散ってしまいました。ランを趣味としているとあれもこれも欲しくなり、来年も咲かせたいと思ってきます。一時期、和歌山の花屋で咲いた後のランを安く売っている店があり、和歌山からの帰り「胡蝶蘭」をたくさん買ってきたこともありました。しかしクリニック内に置くところもなく、屋外では夏の暑さで全部枯れてしまい、もくろみはうまくいきませんでした。それでもコメリに行くと必ず花のコーナーに立ち寄り、気に入った花を買う習慣は変わりませんので幾鉢かは室内に残してあります。

胡蝶蘭

洋ランは蜜を持ちますので蟻が多数寄ってきます。洋ランを目指して蟻の行列が時として出来ることがあり、「不潔になるからやめて下さい。」とのスタッフの声もあり、温度管理の難しい「胡蝶蘭」のみ室内に置いてます。うれしい事に今年花が咲き始め、他の鉢にも花芽が伸びてきていますので写真に撮りました。

ランの愛好家にとってのあこがれは毎年東京ドームで開催される「世界ラン展」です。昨年は都合悪く断念しましたが、今年はきのくに線、新幹線を乗り継ぎ2月7日にいってきました。初めは苗が安く買える最終の日曜日に行っていましたが、ある年「日本大賞」に輝いた「胡蝶蘭」がライトやフラッシュの影響で花が落ちてしまい、「遺影」が飾られているのみでしたので、初めの日曜日に行く事にしました。寒い中開幕を待つ行列に並び熱気溢れる会場に入ることは気持ちが高ぶります。今年は開幕日が土曜日の夜だったので団体客もなくのんびりと見、写真を３００枚以上取ってきました。写真は今年の大賞「リカステ」という種類です。「森の妖精」と言われるだけあり気品のある花です。もちろん帰りには「リカステ」の花を買ってきました。来年咲くでしょうか。

花屋さん曰く、「素人さんが毎年毎年咲かせるようだと商売になりません。」と、それもそうですが。

柏井内科クリニック

リカステ

病院のまど

第１８回市民健康講座のお知らせ

70 歳以上のほとんどの人が白内障にかかると言われています。治療方法はかなり進歩しており、目に違和感があったりなんらかの自覚症状があれば直ぐ眼科にかかりましょう。
今回は一緒に白内障の病気、手術について勉強しましょう。

日時　平成２１年５月２４日
時間　pm２：００～３：００
会場　紀南病院　３階講堂
演題　～白内障手術～
（通常のものから難しいものまで）
演者　紀南病院眼科医員　月元 友厚

市民健康講座を開催しました。。

平成２１年１月２５日、「股・膝・肩関節の痛み」について、整形外科部長、簗瀬能三が講演。↑
平成２１年３月１５日「膀胱の働きとその疾患（病気）」について、泌尿器科部長、山際健司が講演。↓
どちらも興味深いテーマを分かりやすく講演し、好評を博しました。

形成外科診療開始！！

平成２１年５月より形成外科の診療を開始しました。現在神戸海星病院形成外科勤務の小幡有史先生が、非常勤医師として週一回皮膚科外来にて形成外科外来を担当します。診察日は毎週水曜日となっております。よろしくお願いします。

神経内科外来再開！！

専門医不在のため、しばらく休診していました神経内科外来が再開されます。和歌山県立医科大学神経内科勤務の中西一郎先生が、非常勤医師として週一回外来を担当します。診療日は毎週木曜日となっております。よろしくお願いします。

新型インフルエンザ研修

平成21年2月16日（金）
演題「新型インフルエンザについて」
講師　小松香子先生（サラヤ株式会社）

新型インフルエンザについて研修を行いました。大流行を起こす可能性のあるA型インフルエンザの特徴や、新型インフルエンザが発生したときの感染対策として、手指の消毒、マスクの着用などの感染予防策をとることが大切であることを学びました。

編集後記

桜の花も散りはじめ、新緑の季節を迎えようとしています。寒暖の差が激しく、日々の服装にも躊躇する毎日です。現場は、新年度を迎えて慌しい時期をすごしているのではないでしょうか。
企業は毎年、新人職員の特徴を言葉に表し、昨年は「シュガー社員」でしたが、今年はどうでしょうか？年々様変わりする新人の特徴を押さえて、新人職員の笑顔がいつまでも続くように私たち職員も支援していきたいものです。
私も卒後○○年ですが、毎年、新人に負けないようなフレッシュな気持ちで取り組んでいきたいと思っています。
この４号が発刊される頃は、気候も暖かくなり、新人職員の方も現場になれていることと思います。

I.N

社会保険紀南病院
〒646-8588
和歌山県田辺市新庄町 46-70
Tel 0739-22-5000　Fax 0739-26-0925
http://www.kinan-hp.or.jp